校長室だより

令和５年度
１１月３０日
ＮＯ．３３

みんなで「人権」を考えた　秦梨生活文化教室

１１月２５日に「秦梨生活文化教室」が、PTA 主催により行われました。深まりゆく秋のひと時、保護者の方々と共に、「人権」のことや、「科学」のことを、学習し、体験し、心も温かく、豊かになったようでした。

「秦梨人権集会」では、人権擁護委員の方（とケンちゃん人形）の漫才のようなやり取りが面白く、最初は堅かった子供たちの表情も、次第に笑顔に変わり、話に合わせてつぶやきや応答が広がりました。体育館で行われた「サイエンスショー」では、「かがくじっけんキャラバン隊」の方々の繰り出す様々な実験やパフォーマンスに、子供だけでなく、保護者の方も夢中になってしまいました。子供にはすべて聞こえたモスキート音がほとんど聞こえず、不思議な気持ちになった保護者の方もいたのではないでしょうか。「人の嫌がることはしないようにする」「科学の面白さや不思議さが分かった」「親子で学べてよかった」など感想が聞かれ、学びの多い一日でした。

人権集会の中で、人権擁護委員の方からの「差別されない。あなたが１番。守られる命。意見は大切。」というお話が、心に残りました。思ったことを、相手のことを考えずについ無神経に言ってしまったり、逆に嫌な思いをしても言いたいことが言えずにぐっと自分の心に蓋をしてしまったりすることは、誰にでも思い当たることがあるのではないでしょうか。さらに「友達だからいいや」「自分はそれでいいもん」そんな自分本位な思いで相手を傷つけてしまうこともあるかもしれません。

実際に「社会」には、「人権」の問題であふれています。中には「いじめ」が原因で学校を休んだり自殺に追い込まれたりする子供もいます。コロナ禍の始めの頃には、多くの学校で「うつるといけないから、コロナの子の名前を教えて」そんな心無い問い合わせがあったと聞きます。テレビやネットのニュースや番組、SNS 等を見ても、人のことを馬鹿にしたり馬鹿にされたり、有名人の私生活に踏み込んで報道したり、権力を持つ人が暴言を吐いたり、毎日そんな事件や誹謗中傷が画面や紙面をにぎわします。世界には地域や宗教、障害や考え方の違いが許せない人もたくさんいます。

そして子供たちもそんな社会に出ていきます。だからこそ、子供の「人権」を、（子供同士で守るのはもちろん）大人が、学校や地域社会で守っていかなければなりません。そして子供たちも、「人権」について正しく知ることが必要になります。昨年度聞いたお話の中で、作家のくすのきしげのり氏は、これからの時代に大切なことについて「人を思いやること」を挙げていました。相手の話をちゃんと聞くこと、正しく聞き取ること、人のことを思いやって発言すること、きちんと自分の気持ちを伝えること等、「人権」について考える上でも、そうした当たり前のことが大切だと今回の人権教室を通して改めて思いました。